

減帶縦開平

一積 積 長平 永積 同長 或平者

積と並に四倍して以て縦方界を
減して以て縦方界之高以て
縦方界を以て縦方界を以て
縦方界を以て縦方界を以て
縦方界を以て縦方界を以て

數解

一積 四下口長二百二十又歩 長平 永積 三十

七平 容を以て

言自長二百六十八又

平 百七十又

初自積 四百六十八 永積と並に四倍して以て縦方界を以て
縦方界を以て縦方界を以て縦方界を以て
縦方界を以て縦方界を以て縦方界を以て
縦方界を以て縦方界を以て縦方界を以て
縦方界を以て縦方界を以て縦方界を以て

一積 六十七又 長平 永積 三十

言自 長二百六十八又

一積 七十一又 長平 永積 三十

七平 容を以て

答曰 七十九百

平八十一百

一積一千三百四十九

七平百七十九

七平百七十九

答曰 七百十百

平九十二百

一積の寸二分四厘七毫九絲

七平百一十

七平百七十九

答曰 七百十又厘

平九十二百

一積二百九十九

七平百一十

七平百七十九

答曰 七百九十九

平一百

相應開平新術

新積を動て実といひ七平百系 積を以て
差を 除て以て取 平百之 因法といひ七平
と副を以て因法を以て取 平百と今 取求
る 七平百七十九

數解

一直積四丈一尺一寸 平一尺一寸 今積七百十。
寸を以て四形に取 平百七十九と今 取求
る 答曰 七三尺 平一尺一寸

術曰新積^{十百二}を以て 実と以て 旧七^{五寸} 平
積^{五寸}を以て 以て 降^{二寸}を以て 實を降^{二寸}を以て 高^{二尺}
を以て 平方^{一尺}を以て 以て 高^{二尺} 二因法と以て 旧七^{一尺}
又^{二寸} 二因法を以て 以て 新七^{三寸}を以て 旧平
積^{一尺} 二因法を以て 以て 新平^積を以て

相應開平舊法

旧七を以て 新積^{五寸}を以て 以て 旧平を以て 降^{二寸}
を以て 平方^{一尺}を以て 以て 降^{二寸}を以て 新積^{五寸}
を以て 以て 旧七を以て 降^{二寸}を以て 平方^{一尺}を以て

新平を以て

數解

一今積^{十寸} 旧七^{五寸} 平方^{二十六寸} 旧形^{五寸}
下^{五寸}を以て 平方^{一尺}を以て 降^{二寸}を以て

術曰旧七^{五寸}を以て 新積^{五寸} 平方^{一尺}
を以て 降^{二寸}を以て 降^{二寸} 以て 新平^積
平方^{一尺}を以て 新七^{三寸}を以て

旧平^積を以て 新積^{五寸}を以て 平方^{一尺}
を以て 降^{二寸}を以て 新平^積を以て

一積二千二百寸 曰七寸五分 曰八寸

是下右應して作ら新七寸五分を旨

言曰七百寸 年三十二寸

一積八十八万六千四百寸 曰七百六十寸

年八寸五分 是下右應して作ら新七寸五分を旨

言曰七千二百八十寸 年又六百八十八寸

一積九万九千二百二十六寸 曰七十一寸

年一十二寸 是下右應して作ら新七寸五分を旨

言曰七千三百三十六寸 年四百七十六寸

一積二億二萬五千 曰七十八寸 年四百寸

是下右應して作ら新七寸五分を旨

言曰七。寸。〇。〇。〇。又系 年。寸。〇。二。七。〇。系

一積百。七。五。二。千。三。百。七。十。四。百 曰七百四十一寸

年九十寸 是下右應して作ら新七寸五分を旨

言曰七千二百六十九寸 年八百四十六寸

帯縦開平方三條

一積 積 七。年。五。積 年。五。積

積と算帳の中位と云々 算と云 位と云

乙 初高と約と 一位より一位起して十位まで一位と隔り
左の位は厚糸糸又一位を隔りて右の位は算

の首位よりして
位を定む

初商界を定より 減法

初商より法方を定りて 定より 減法 七平の法
を法方より

余生より 減法より

初商より法方を定りて 減法より 一桁

除りて 次商より

以後高界より法方を定りて 減法より 減法より 減法より

と次

初次商より法方を定りて 減法より 減法より

一桁 除りて 二商より

此三商界より法方を定りて 減法より

減りて 次商より

初次三商より法方を定りて 減法より

乃高段より法方を定りて 減法より

数解

一積二万六千二百六十六歩 七平名一貫 一歩を定

善日 万七七百

初日 二万六千二百六十六歩

初商より法方を定りて 減法より 初商より 減法より

初商より法方を定りて 減法より 初商より 減法より

を定より 城に入事し 及び 三十一歩を所
定より 初高昇せ候を以て 所定を一柳除
て 以て 初高と爲

け次高昇せ候に 所定より 減止余又 所定より
初次高和し 以て 所定を一柳除て 以て
之高と爲

卅三高昇せ候に 所定より 減止
追て 如し 所定より 止

初次三高和保て 定高より 乃高段件を以て
皆本保て 定高より

魏法開字

帯候昇字中一ヶ先七を以て 或を
云位方先減して 爰一ヶ加と 形を
魏法と云

一積積 七平若 積 七を以て 定高

積を以て 積の中位より 定高より

位より 初高と 初高方を以て

定高より 以て 初高昇と 減して 余り

所定より

初高昇の因道方は 候を減して 以て 所定より 一柳

除て 次高より

け 次高昇せ候 所定より 減して 或は 次高昇せ候
加と 以て 定高より

余数実と云

初次商和して云 数実を一桁除て二高
と云

世二高果は後を数実より減之

進らぬは数実より止

初次二高和倍て定商と云

乃高和倍を以て
定商併て定商と云

教解

一積七百二十百八十歩 七字百百早二百之
長を云

三百七十三百五十六百 千二百十四百

初日積七十六百 八十歩 と云云 実と云

約して初商臨を以て 初商より後方商解

乃七十四 と云云 乃積 百二十 と云云 加て以て 十二百六十

内初商果積を減して 二八十七百 歩を以て教

而九十二歩 と云云 乃積 九百 と云云 数実を

一桁除て以て次高

世次商果は後を数実より減余 九十六百 を又数

実と云

初次商和して云 数実を一桁除て二高と云

二高果正候を結実より城へ

進て次高果実を止

初次二高果保下定高上候 乃高果保下候上候
此高保下定高上候

一後一万六千二百五十二歩 七千五百一歩 七を口

是日七百二十八歩

例日積 百六十五歩
六十五歩 正高上候

約し初高果を以て 初高上 後百歩と第一

て以初高果を以て 加て去りて 百六十五歩 内初

高果 新と城へ 金歩へ 百六十五歩 城上と

次高果を以て 初高果上候と
一初高上候 初高上を以て 城

実を二初降し 先高果 新 而新 世高果 半

候 初高果 減次進し 而是 城へ 世高果の内 新

候へて 定次高果 新と以て 初高果 新 下 新を

以て 以て 初高果 下 城実 百九十九歩 城上と

新歩

内次高果 半 候 新を城へ 全 百九十九歩 城上と

次高果 上と 二高果を以て 三高果 新を以て 百九十九歩

を以て 城実と 初降し 以て

二高果 半 候 三歩を 城実より 城へ 別実

候へり

初次之高を併し百廿八歩を定高とす

減節維算

一積 千倍 七平和積 千を百倍

積を算盤の半位母をて 算を以

位と見し 初高約凡 一位より一也位凡十百千
万位位を隔てた

分層年又一位を隔てた 初高界を算し加して

以較位方と一極除して初高を定し全算し

算算り凡 是後方を除して算算の 算算の
この初て減して算算正原し位凡

是の方を折まして内初高を減して子と算付

次高を約して自し 算し 算し加てを

除記次高定数 子の内次高を減し 是記付

二高を約して自し 算し加て世除し

て三高定む 子の内三高を減して算し 若付

四高を約して自し 算し加て算し 除し

五高定む 子の内四高を減して 即ち名付

遊言此の次の高を求るなり 若先長求記

是の二減高式と云い候し 算し 算し 就

とも加て減と云ふ故 正原の傳習 算術

解し 算術



一積四万百歩又百 七千七百八十歩
 七千七百八十歩 七千七百八十歩

数解

差百 七千七百八十歩 一歩百七十又百

例曰積 40000 七千七百八十歩

約一 初高 七千七百八十歩

初高界 初高 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 降一 定初高 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 降一 定初高 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 約一 次高 七千七百八十歩 七千七百八十歩

加一 40000 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 高 七千七百八十歩 七千七百八十歩

約一 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 約一 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 定 七千七百八十歩 七千七百八十歩

減高式 七千七百八十歩 七千七百八十歩

数解

一積四万歩 七千七百八十歩 七千七百八十歩
 七千七百八十歩 七千七百八十歩

側白積 歩を定む

約一を徑初高倍 自一 三十二歩 定一 三十二歩 加 三十二歩

方 三十二歩 定一 三十二歩 定初高倍 三十二歩

はる 負実 三十二歩 定一 三十二歩 加 三十二歩 負と

定方をおす 三十二歩 定初高倍を減 三十二歩 子

負 三十二歩 定一 三十二歩

次高倍を約 三十二歩 自一 三十二歩 定一 三十二歩 加 三十二歩

城 三十二歩 子降 三十二歩 定次高倍を減 三十二歩

城 三十二歩 子の内次高倍を減 三十二歩 加 三十二歩

正の教 三十二歩 世と

三高倍を約 三十二歩 自一 三十二歩 定一 三十二歩 加 三十二歩

加 三十二歩 正の教 三十二歩 世と 三十二歩 定三高倍を減 三十二歩

常從正平懸例 三十二歩 の 三十二歩 加 三十二歩 正の教 三十二歩

正の教 三十二歩 を常 三十二歩 用 三十二歩 正の教 三十二歩 を加 三十二歩

の 三十二歩 正の教 三十二歩 を常 三十二歩 用 三十二歩 正の教 三十二歩 を加 三十二歩

又曰 正の教 三十二歩 の 三十二歩 式 三十二歩 を常 三十二歩 用 三十二歩 正の教 三十二歩 を加 三十二歩

正の教 三十二歩 の 三十二歩 式 三十二歩 を常 三十二歩 用 三十二歩 正の教 三十二歩 を加 三十二歩

正の教 三十二歩 の 三十二歩 式 三十二歩 を常 三十二歩 用 三十二歩 正の教 三十二歩 を加 三十二歩

正の教 三十二歩 の 三十二歩 式 三十二歩 を常 三十二歩 用 三十二歩 正の教 三十二歩 を加 三十二歩

の形を信して信じて以て
 実と除てて長と平
 を得 加てはるものちと一 又曰 廉邊を以て実級の
脚てはるものちと一 方級と除てはるもの
後の方級を加てはるもの 方級の 初等加減の
字二方二実と可て是通也 分 かこれことあり 依て平方四象を揚
 て教解と形とをたのこし

実
 ○
 廉

実
 ○
 廉

得方面式

実
 方
 廉

得長式

実
 方
 廉

得平式

実
 方
 廉

得長又平式
 此式交商式と云